

九州工業大学の近況（H29.2～）について

九州工業大学学長 尾家 祐二

- 新緑の季節に想う(H29.5. 1)（別紙①）
- H28 年度 学位記授与式を挙行（別紙②）
 - ・ H29.3.24（金） @北九州ソレイユホール
 - ・ 1601 名（学部_958 名、大学院_643 名）※うち女子学生 177 名、留学生 54 名
- 情報工学部 創設 30 周年記念フォーラムを開催（別紙③）
 - ・ H29.3.27（月） @九州工業大学飯塚キャンパス
 - ・ 「記念式典」「公開シンポジウム」「高校生向け模擬授業」「記念祝賀会」を開催
- H29 年度 入学式を挙行（別紙④）
 - ・ H29.4.5（水） 工学部・大学院工学府・大学院生命体工学研究科 @北九州ソレイユホール
情報工学部・大学院情報工学府 @イヅカコスモスコモン
 - ・ 1674 名（学部_1036 名、大学院_638 名）※うち女子学生 195 名、留学生 51 名
- 国際宇宙ステーション「きぼう」からの超小型衛星利用に関する JAXA との包括的な連携協力協定を締結（別紙⑤）
- 飯塚市・嘉麻市・桂川町 と包括連携協定を締結（別紙⑥）
- 本学教員がプロジェクトリーダーを務めるチームが、国際標準規格 ISO-19923 を成立（別紙⑦）
 - ・ 宇宙機帯電の最悪プラズマ環境の国際標準。これにより、より安全な人工衛星の設計に貢献。
- 無線 LAN 国際標準規格 IEEE802.11 標準化委員会において、共同提案が採択（別紙⑧）
 - ・ 次世代の無線 LAN 規格 IEEE802.11ax に導入。無線通信において端末設置密度が高い環境下での高効率伝送に貢献。
- 英国の教育専門誌、世界大学評価機関における世界大学ランキングにランクイン（別紙⑨）

□ 国際交流一覧【大学間（学長レベル）の組織的交流のみ】

- ・キングモンクット工科大学北バンコク校（タイ）へ訪問し、交流協定の更新（H29.3）
- ・ペトロナス工科大学（マレーシア）へ訪問し、交換留学及び研究者交流の可能性についての協議（H29.3）
- ・マレーシアプトラ大学へ尾家学長が訪問し、共同研究プロジェクト推進のための趣意書（LOI）の調印（H29.3）
- ・マレーシアプトラ大学の学長一行が本学を訪問し、交流協定書(MOU)更新の調印（H29.4）
- ・サンテティエンヌ国立高等鉱山学院（フランス）の学長一行が本学を訪問し、さらなる連携強化を協議（H29.4）
- ・国立アダム・ミツケヴィチ大学（ポーランド）の教員が Erasmus+による教員派遣の一環で本学学長を表敬訪問（H29.4）*2016年にEU(欧州連合)の国際教育プログラム「Erasmus+(イラズマスプラス)」に採択、初めての2大学間の交流
- ・揚州大学（中国）へ訪問し、共同研究室の立ち上げなど、さらなる連携強化を協議（H29.5）

□ 受賞一覧

【学生】

- ・溶接学会より、本学学生が H28 年度「溶接学会奨学賞」を受賞（工学府 物質工学専攻 M2 福村 佳孝）
- ・第 4 回ソレノイドコンテストにおいて、「日めくりメクリッパー」がソレコン大賞を「イケメンキスマシーン」がイグソレコン賞を受賞
- ・国際会議 NCSP'17 において Student Paper Award を受賞（生命体工学研究科 生命体工学専攻 D2 足立 侑駿）
- ・表面技術協会講演大会において学術奨励講演賞を受賞（工学府 物質工学専攻 M2 鳥越悠太郎）
- ・日本金属学会・日本鉄鋼協会において奨学賞を受賞（工学部 マテリアル工学科 B4 稲田拓哉）
- ・日本鑄造工学会において奨励賞を受賞（工学府 物質工学専攻博士前期課程 M1 山本浩）
- ・電子情報通信学会総合大会において若手ポスターセッションプレゼンテーション賞を受賞（工学府電気電子工学専攻 M1 松藤諒太）

【団体・大会】

- ・『RoboCup Japan Open 2017』で Hibikino-Musashi@Home が 準優勝・3 位入賞

【教員・職員】

- ・計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2016)で、優秀講演賞を受賞（工学研究院 相良 慎一 教授）
- ・日本物理学会第 22 回論文賞を受賞（工学研究院 松平和之 准教授）※2年連続の同賞の受賞
- ・国際会議 MVA2017 で Best Poster Award を受賞（情報工学研究院 齊藤剛史 准教授）

2017年5月1日

2017年 新緑の季節に想う

九州工業大学学長 尾家祐二

新入生を迎え、新たな1年が始まりました。学部入学生および大学院前期・後期課程入学生合わせて1674名の学生が入学しました。大変嬉しいことです。その中には、12ヶ国から来日してくれた51名の留学生も含まれています。遠い国々から来てくれた人達を歓迎する意味で、彼らの国の旗を描いた下記のパネルを作成して、入学式会場に掲示しました。

新年度に入り早速、マレーシアのプトラ大学、フランスのサンテティエンヌ国立高等鉱業学校の学長はじめ執行部の皆様に訪問して頂き、今後の更なる連携強化について協議することができました。さらに、新たにポーランドのアダム・ミツキェヴィチ大学の先生に訪問して頂きました。ポーランドの有名な詩人の名前を冠した大学です。今年から新たにそうした大学と Erasmus+プログラムを開始することになりました。本学をパートナーとして選んで頂き、学生、教職員が交流する機会を得ることができたことに感謝しています。本学にとっては、フランスのロレーヌ大学との Erasmus+プログラムに次いで2件目になります。

このように様々な国の方々とお会いすることは、交流の意義を改めて感じ、考える機会となります。国家レベルの関係では多様な要因が複雑に作用し合いますが、本学の、教育研究に関わる特色ある大学間交流の多くは、一人の本学教員と相手の大学の教員との長い研究交流をきっかけとしています。そして、そのきっかけを通して個人間の信頼が醸成され、他の教員の新たな参加や事務職員間の協議により、組織的な信頼関係に発展してきています。

ポーランドの大学とは、これから組織的交流を充実させていきたいと考えています。ポーランドについては、最近読んだ「また、桜の国で」(須賀しのぶ著、祥伝社刊)を通して、これまでの日本とポーランドの交流を知ることができました。その小説は、第二次世界大戦直前から話を始め、緊張した世界情勢の中においてポーランドの日本大使館に勤務する外務書記生を主人公とした話です。

外務省のホームページ(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol22/>)にもあるように、ポーランドは「平原の国」という意味で、かつ「1795年にポーランドは消滅。第一次世界大戦が終了する1918年に独立するまでの123年間、ポーランドは世界地図から姿を消す」という過酷な歴史を乗り越え、コペルニクス、ショパン、マリー・キュリー(キュリー夫人)等を生んだ国です。そして、2019年には日本・ポーランド国交樹立100周年を迎えることとなります。今回の交流が、改めてこのようなことを知ろうとする機会とな

りました。

上記の小説の中で、「外交の基本は、信頼である。国と国といえども人と人であり、人間関係の信頼によって成り立つのと同じだ。だから、我々は、常に信頼に足る人物でなければならない」と述べられており、様々な場面での大事な指針になりえます。新たな生命の息吹を感じるこの季節に、躍動的な活動を通して、互いを知り、成長していきたいという意志を持続させ、国内外において、様々な交流活動を継続していきたいと改めて思っております。引き続き、皆様方のご理解とご協力をよろしく申し上げます。



入学生歓迎パネル

(参考)

Erasmus+ (エラスムス・プラス) :

エラスムス・プラスは EU が運営する教育助成プログラムで、EU 域内の大学が域外の大学をパートナー校として共同申請することになっています。本学は、その中のひとつである短期留学プログラム（3カ月～12カ月）に採択されました。このプログラムに参加する相互の学生及び教職員に対して、渡航費と滞在費が助成されます。現在、新たに3件申請しており、今後も申請・採択を増やしていきたいと考えています。

参照：駐日欧州連合代表部

URL <http://www.euinjapan.jp/relations/academic-erasmus/#2>

平成28年度 学位記授与式を行いました

更新日:2017.03.24

平成29年3月24日(金)、北九州ソレイユホールにおいて、平成28年度 学位記授与式を挙行し、学部・大学院(博士前期・後期課程)あわせて1,601名が新たな旅立ちを迎えました。大学関係者と多くの保護者の皆様が見守る厳粛な雰囲気の中、各学科・専攻の代表者が学位記を授与され、尾家学長は告辞において「本学で学んだ知識とスキルを活かし、人々の多様性を尊重し、賞賛し、支えるために、貢献することを切に願います。」と卒業生・修了生を激励しました。

修了・卒業した学生が、本学で学んだことを活かし、いつまでも健康で、社会に大いに貢献してくれますことを、職員一同、祈念しております。



学長告辞



学位記授与の様子



大学院博士前期課程・学部の総代答辞



大学院博士後期課程の総代答辞



メンネルコールの合唱と交響楽回並びに吹奏楽部による演奏



記念撮影

情報工学部 創設30周年記念フォーラムを開催しました

更新日:2017.03.28

平成29年3月27日(月)、情報工学部において創設30周年記念式典および日本学術会議主催の公開シンポジウムを開催しました。

アゴラ棟で実施した高校生向けイベントでは、模擬学習体験や平成30年度に予定している学部改組の説明を行い、100名を超える高校生及び高校教員で賑わいました。

500人講義室では、記念式典及び日本学術会議第三部会員である萩谷昌己様による「情報学を定義する」と題した基調講演のほか、有識者によるパネルディスカッション「ICT社会を切り開く人材育成」を実施し、約250人が聴講しました。

また、夕方からは学外で祝賀会を開催し、100名を超える学内外関係者が情報工学部創設30周年を祝いました。

この様子が、平成28年3月28日(火)西日本新聞筑豊版26面・朝日新聞筑豊版31面で取り上げられました。

◇西日本新聞(筑豊版)の記事は [こちらから](#) (情報工学部ウェブサイト)



梶原情報工学研究院長による式辞



高校生向け模擬学習体験



日本学術会議第三部会員 萩谷昌己氏による基調講演



有識者によるパネルディスカッション



祝賀会での来賓及び学内関係者

平成29年度 入学式を挙行了しました

更新日:2017.04.06

平成29年度入学式を、平成29年4月5日(水)10時からイイツカコスモスコモン(飯塚市飯塚)、14時から北九州ソレイユホール(北九州市小倉北区)において挙行了しました。

戸畑・飯塚・若松の3キャンパスに迎えた学部・大学院合わせて1,674名の新入生が、九工大生として新たな一歩を踏み出しました。

尾家新学長による、「教室内の学習だけでなく、学生プロジェクトや海外留学等に積極的に参加し、相互作用を通じて、考え、他者から学び、成長に繋がってください」との告辞を受け、新入生代表による宣誓が行われました。

また、両会場において、「鳳龍奨学賞」(学業成績優秀者)、課外活動等に功績のあった団体等に対する学生表彰および技術賞・語学賞の表彰があわせて行われました。

【飯塚会場】



尾家学長による告辞



情報工学府新入生代表宣誓



学生表彰



音楽隊、メンネルコールによる祝賀演

【北九州会場】



尾家学長による告辞



工学府・生命体工学研究科 新入生代表宣誓



学生表彰



モンゴルからの留学生

国際宇宙ステーション・「きぼう」からの超小型衛星利用に関する JAXA、九州工業大学との包括的な連携協力について

更新日:2017.04.20

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)、国立大学法人九州工業大学(九州工業大学)の2者は、「きぼう」日本実験棟からの超小型衛星放出の利用開拓をともに進めるため、平成29年4月12日(水)に包括的な連携協力協定を締結しました。

連携協定は、人材育成機能、超小型衛星開発の能力・経験を持つ大学とJAXAの持つユニークな超小型衛星放出能力及び安価・定期的な放出機会を組み合わせ、日本の総合力を活用することによって、多くのアジア、新興国が求める人材育成と衛星放出を合わせた形での国際協力を推進する新たな仕組みです。

九州工業大学とJAXAは、連携してユーザ開拓・プロモーションを積極的に進めることにより、超小型衛星の利用を企画・検討している国内外の政府機関や大学等に対して「きぼう」の利用機会の情報を早期に提供し、その利用検討を効果的に進めることが可能となります。



(左)浜崎理事(JAXA)、(右)尾家学長(九州工業大学)

飯塚市・嘉麻市・桂川町 と包括連携協定を締結しました

更新日:2017.04.27

本学は、飯塚市・嘉麻市・桂川町の各自治体と様々な分野において連携事業に取り組んできましたが、この度、2市1町と本学との間で、包括連携協定を締結し、平成29年4月26日(水)、飯塚研究開発センターにおいて調印式を執り行いました。

近畿大学も3自治体と包括連携協定を締結し、2大学3自治体が一堂に会した合同調印式となりました。

これまで各々で取り組んできた学術的分野(教育・文化の振興)や経済分野(観光や産業の振興)での連携の経験を活かして、さらに“まちづくり”や“ひとづくり”といった幅広い分野での連携強化を図り、地方創生の促進並びに行政が抱える様々な地域課題の解決に向けて相互に連携協力することを目指します。



左から順に、赤間幸弘市長(嘉麻市)・井原徹部長(近畿大学産業理工学部)・片峯誠市長(飯塚市)・尾家祐二学長(九州工業大学)
・井上利一町長(桂川町)

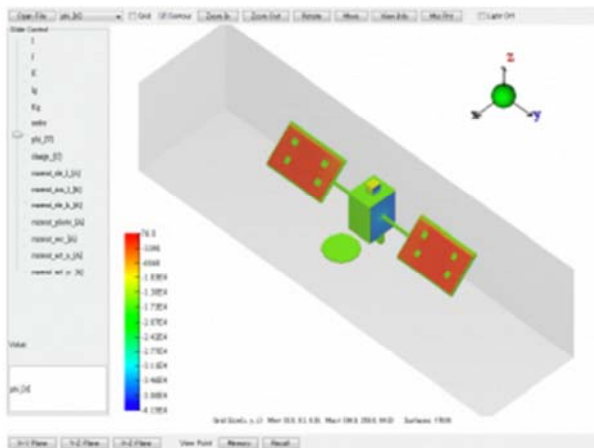
本学教員がプロジェクトリーダーを務めるチームが、国際標準規格ISO-19923を成立しました!

更新日:2017.05.10

宇宙環境技術ラボラトリーが平成24年度から取り組んできました宇宙機帯電の最悪プラズマ環境の国際標準、**ISO-19923** “Space environment (natural and artificial) -- Plasma environments for generation of worst case electrical potential differences for spacecraft” が、平成29年5月1日締め切りの最終投票にて承認され、国際標準化機構(International Standard Organization)の正式な国際規格として成立することとなりました。

規格制定には、同ラボラトリーの豊田准教授がプロジェクトリーダーとなり、趙教授をはじめとし、アメリカ、ロシア、中国の帯電放電の専門家による国際チームを組んであたりました。これにより、より安全な人工衛星の設計に貢献することが期待されます。

本規格の成立にあたり多大なるご支援をいただきました関係諸機関様に、深く感謝いたします。



規格中で用いられた宇宙機帯電解析例



規格策定会議参加者

IEEE802.11標準化委員会において、共同提案が採択されました

更新日:2017.05.18

平成29年3月12日(日)から3月19日(日)にかけて、カナダのバンクーバーで行われた無線LAN国際標準規格を策定するIEEE802標準化委員会において、大手ベンダー(Huawei社、Intel社など)と本学の共同提案が採択されました。

採択された技術は、次世代の無線LAN規格であるIEEE802.11axに導入されるものであり、無線通信において端末設置密度が高い環境下での高効率伝送に貢献するものです。

IEEE802標準化委員会では、様々な次世代規格(次世代技術)が議論されており、本学としては今後も継続して委員会に参加し、大学発の技術によって標準化活動への貢献を目指します。



◇ THE 世界大学ランキング

英国教育専門誌 Times Higher Education (THE) による、世界で権威性の高い大学ランキング（約 18,000 もの高等教育機関の上位 980 大学（79 大学）のランキング（2016.9）



⇒ THE 世界大学ランキング

801 位～980 位 ※うちランクインした日本の大学での順位 39 / 69 位

⇒ THE アジア大学ランキング

201 位～250 位

⇒ THE 世界大学ランキング 日本版 2017

28 位 ※国立大学では 19 位、九州の大学では 4 位

◇ QS 世界大学ランキング

英国の大学評価機関 Quacquarelli Symonds（クアクアレリ シモンズ）による大学ランキング



⇒ QS 世界アジア大学ランキング

175 位

⇒ 研究分野別 QS 世界大学ランキング 2017

※研究に関する主要 5 領域 46 学術分野を網羅した世界ランキング

工学領域：451 位～500 位

工学領域（電気・電子分野）：351 位～400 位